

「クリンクルはくい」が MROの情報番組レオスタで紹介されました！

令和4年7月26日(火)午後6時15分から、MROの情報番組レオスタの特集『埋立ごみを考える』と題して、MRO×SDGs'12『つくる責任 つかう責任』の取り組みの紹介の一つとして、金沢市の戸室埋め立て処分場と羽咋郡市広域圏事務組合の第2埋立処分場及びクリンクルはくいが紹介されました。



取材は、7月20日(金)に行われ、組合職員が対応させていただきました。主な放送内容は次のとおりです。

埋め立て処分場の埋め立て可能残容量が全国的に少なくなってきました。

羽咋郡市広域圏事務組合では、組合の埋立処分場を1日でも長く使用するため『埋立処分場の延命化』を目指し、生ごみのRDF化、缶、びん、プラスチック類や再利用化、鉄やアルミなどの金属類の再資源化を徹底し、最後に残ったごみだけを埋立しています。

その際、ごみの再資源化と並行して、まだまだ、使用できるような家具類などは、補修やクリーニングをし、食器類も安く販売し、ごみの減量化に努めています。

この模様を、それぞれ、取材していただき、放送していただきました。



写真中央は、
MRO中村雅人記者、
左はカメラさん。



右
羽咋郡市広域圏事務組合
環境保全課 池田希望 主事

※取材・撮影クルーにも安全のため、「安全ベスト」及び「ヘルメット」の着用をお願いしています。

② リサイクルのため家具を補修する志賀町シルバー人材センターの奥村さん(左)、高田さん(右)

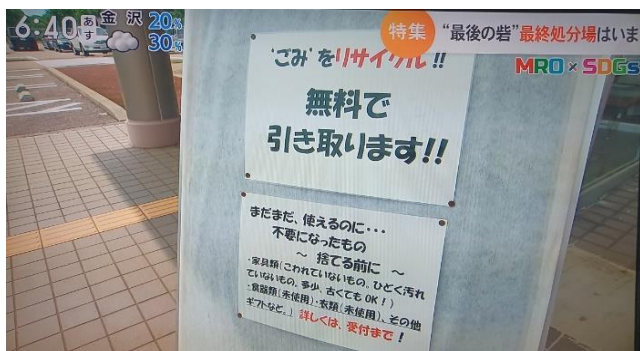




羽咋郡市広域圏事務組合の第2埋立処分場は、平成29年度から埋立を開始し、埋立容量60,250m³で、令和22年度までの埋立期間となっています。埋立処分場の整備は、多額の費用や長期の準備期間が必要となるため、組合では、ごみのRDF化やリサイクルを最大限行い、埋立ごみをできるだけ少なくし、埋立処分場の延命化を図りたいと考えています。
“最後の砦”埋立処分場”処分場をできるだけ長く使いたい”。



リサイクルセンター“クリンクルはくい”では、家具を補修やクリーニングをしてリサイクル品としての販売を、少なからず行ってきました。平成28年度あたりから持ち込まれるごみの量が急増したこともあり、家具などのリサイクルを積極的に行って、再利用とごみの減量化を啓発してきました。持ち込まれるごみを“分析”すると、頂き物で、使っていない食器類、家の片付けで捨てられた掛け軸・書画・骨董に至るまで、まだまだ、使える！捨ててしまうのは“もったいない”ものが多数ありました。



季節によって、展示品をかえたり、「商品」にも工夫をしています。家具などでも人気のリサイクル品は、その日のうちに、売り切れる場合も…。



リサイクル品の提供もどんどん受け付けていますので、よろしくお願ひします。
いただき物などで、結局使わなかった食器類や什器等、引っ越しや買い替えなどで処分するような家具など、リサイクル可能なきれいなものについては、お引き取りします。大切に使った家具など…、まだまだ、使えるものは、次の方に託してみませんか!?

ときどき、思わぬ掘り出し物が出品される場合もあります。お取り置きは、できません。また、お電話での在庫の確認やお値段のお問い合わせには、対応いたしかねますのでご了承ください。ぜひ、クリンクルはくいまで、お立ち寄りください。新型コロナウイルス感染が拡大傾向にあります。マスクなど感染予防対策もお忘れなく！